

日本脳外傷友の会第16回全国大会 in 高知アピール（案）

今年、リオデジャネイロで開催されたオリンピック、パラリンピックでは日本選手が大活躍をし、私たちに笑顔と元気をくれました。社会の一員として生活している高次脳機能障害者の人たちもリオオリンピック、パラリンピックで活躍された選手の皆さんから目標に向かう力と姿勢をもらったことでしょう。

しかし、4月に発生した熊本地震、各地を襲う大雨による河川の氾濫や土砂災害など、障害者にとって災害に遭った時の支援は、など不安材料があるのも確かです。

また、7月に起きた神奈川県相模原市の津久井やまゆり園の凄惨な事件、「障害者なんかいなくなればいい」このように理不尽な考えを持つ人がいる、そのような社会であっていいのでしょうか。

今大会のテーマでもあります「見えない障害？」「見てない障害？」～もっかい考え直さんかえ～を原点とし、以下のことをアピールします。

◎今年4月に障害者差別解消法が施行されたとは言え、今日においても障害者に対する偏見、差別は社会の中に厳然として残っており、とりわけ「見えにくい障害」と言われる高次脳機能障害をもつ人々への誤解、偏見は存在しています。私たちは、原点に戻って、社会への啓発活動を積極的に継続していきます。

◎高次脳機能障害者（児）の地域生活を支えるための障害特性に対応できる知識及び技術を持った人材育成など、医療と福祉の連携また、友の会と専門機関、教育機関との連携など多職種との連携をさらに強めていきます。

◎平成30年度からの障害者基本法に基づく障害者福祉計画、障害者総合支援法に基づく障害福祉計画において高次脳機能障害者支援が明確に位置付けられるよう働きかけるとともに、「専門的・広域的な相談支援を担う高次脳機能障害者支援センター」の恒久的設置が保障されるよう制度・政策の整備を要求していきます。

◎高次脳機能障害者（児）が自身の力を信じ、本人活動、ピア・サポート、当事者ネットワークなどの促進を図り、一人ひとりの生活力を向上していくことを援助していきます。

「人の世に、道は一つと言うことはない。道は百も千も万もある」坂本龍馬の言葉のように高次脳機能障害者への支援は一つではありません。

私たちは各地の当事者団体、当事者、家族が望む施策の実現を目指し手を携え一丸となって活動を展開していきます。

平成28年10月8日

日本脳外傷友の会第16回全国大会 in 高知参加者一同